

2016年度 事業報告書

1) 事業の成果

《パレット》

1. **パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります。**
 - ・ 青葉区の子育て支援の一翼を担う法人として、「青葉台に一時預かりを」の声に応じて小規模保育室併設型乳幼児一時預かり事業「パレット一時預かり保育室なないろ」を開設しました。
 - ・ パレットの理念に基づいた事業の継続、充実、また必要とされる新たな事業の展開、そのための人材確保、そして育成に力を入れました。その成果として、パレットの目指す「子育てしやすい町づくり」につながる活動の理解を得て、メンバー加入がありました。
 - ・ 安定した運営のために、将来を見据えた組織作りの議論を深めました。
 - ・ 子育てや介護をしていますが、ひとり親や障がいのある方も働き続けられるところであるよう、お互いを認め合っています。

2. **子育て家庭のニーズ把握に努め、パレット全体で共有した課題を外部にも発信していきます。**
 - ・ 各事業所で直接聞いた当事者からの様々な声を「青葉区推進会議」や子育て支援ネットワーク事業の「つながりミーティング」などで発信してきました。
 - ・ 青葉区福祉ユニット会議、ワーコレ保育部門会議などで子育て家庭の課題を共有し、課題解決に向けて取り組んできました。
 - ・ 横浜市立大学と連携したマップワークショップ、たまプラーザ次世代郊外まちづくり「子ども・子育てタウンミーティング」などを通してパレットの事業や地域の課題を外部に発信してきました。
 - ・ 「にっぽん子育て応援団」のまるごとケアプロジェクトの報告会に出席することで、多世代が集う居場所づくりを含めたトータルケアについて考える機会を得ました。
 - ・ 各事業所では利用者にアンケートをとり、本当に今必要とされている子育て支援の把握に努めました。

3. **メンバーの子育て支援力アップにつながる研修を企画・運営したり、積極的に外部の研修に参加することで、支援者としての力量アップに努めます。**
 - ・ メンバーが必要な研修に参加できるように、事業所を越えて人的バックアップを行いました。また、研修内容を報告し共有することで各事業の質の向上につながりました。
 - ・ 事業所の枠を越えて、よりよい支援のために必要なコミュニケーション力の向上を目指して、スタッフも参加できるヨガを通じた研修を行いました。

4. 子育て家庭の視点からの防災、減災について考える機会を設け、地域の方々と災害時に協力できるように努めます。
 - ・ これまで青葉台で行ってきた「お散歩マップワークショップ」を市ヶ尾に場所を変えて行いました。ぴよぴよとまーぶるの利用者親子、地域の方々と実際に地域を歩いて探索することで、自然や人的環境の再発見に加え、防災の視点からも我々が住む街のことを考えることができました。まーぶる開室当初からの地域とのつながりが深まり、新たなつながりも生まれたことから、次年度以降も継続の必要性を実感しました。
 - ・ 例年通り、防災・減災を考える機会として、男女共同参画横浜北あざみ野アートフォーラムの講師を迎えて講座を開催しました。
 - ・ 事業所毎に利用者も参加して防災訓練を行いました。保育室では訓練時の様子を連絡帳や通信で保護者に伝え、利用者にも防災について考えるきっかけを作りました。

5. 多様な親子に寄り添い、必要な支援ができるよう事業所や関係機関との連携を密にして、妊婦から小学生までの子育てを応援します。
 - ・ 事業所間の連携をより密にし、各事業所で把握した「支援が必要な子育て家庭」を速やかに「預かり事業」や「子育てサポートシステム」に繋げ、サポートできるようになりました。乳幼児に限らず、小学生の子育て家庭への支援・相談にも対応しました。
 - ・ 子育て家庭を取り巻く環境や社会の情勢を受けて、就労が理由の保育ニーズが増加しています。「保育園に預けて仕事をしたいが、子どもとの時間も大事にしたい」と願う親や出産後初めて仕事に出る親の悩みを聞き、それぞれの親子に寄り添い、様々な子育ての形があることを伝え続けていきます。

6. 様々な世代の方々に子育て支援やパレットの活動について伝えて理解を深めると共に、子育て支援の輪を拡げていきます。
 - ・ 青葉区民祭りに参加し、パレットの行う子育て支援活動を広く区民に向けて発信しました。また輪投げのブースを開き、多数の親子が楽しめる場を提供しました。
 - ・ パレット通信を発行し、関係団体や機関に配布しました。
 - ・ ホームページに活動の様子や新着情報を掲載できるようになりました。
 - ・ ラフール5周年企画や、いるかくらぶが市ヶ尾第三公園の愛護会事務局として活動することで地域の方にパレットの活動を伝えることができました。

2) 事業内容

①特定非営利活動にかかる事業

《保育室まーぶる》

1. 子ども達の人格を尊重し、一人ひとりの健やかな育ちを応援していきます。また、安心、信頼を得る保育環境づくりに努めます。
 - ・ 定期預かり、一時預かり、障がいのあるないに関わらず、誰もが楽しく過ごすことができるよう、子ども一人ひとりに応じた関わりを行ってきました。例えば、一時預かりで初めてまーぶるに来たお子さんには、慣れない分、より丁寧な対応を心掛け、「さみしい」「不安」などの気持ちをしっかり受け止めるよう努めてきました。また送り迎えの際に、保護者の方とのコミュニケーションも積極的に行い、子どもたちの一日の様子等をしっかり伝えるようにしてきました。それにより、保護者の方も日頃の育児での心配点や気になることなど気軽に話してくださり、より良い関係を築け、まーぶるの「保育の質」の向上にもつながりました。
 - ・ 晴れた日には毎日散歩に出かけ、公園で体を動かし四季の自然に触れてきました。これは、体力面では脚力の強化に、また心の面では季節を感じる豊かな感受性の育成につながったと考えています。
 - ・ 子どもたちが、より安心・安全に遊べるよう、庭の遊具、保育室内家具の整備を行いました。また子どもたちの興味を引き出せるよう「子どもたちの作品のなる木」を壁面に作り、年間通して掲示しました。

2. 子育て支援について視野を広げ、様々な情報の提供、他事業所との連携などを行なうことで、子育ての良き伴走者となるよう努めます。
 - ・ 区や他事業所との連携を密にし、必要に応じて緊急の受け入れを行いました。急な人手の確保が課題です。来年度はその改善を図っていきたいと思います。
 - ・ 送り迎えの際には、保護者の声を丁寧に聞き取り、悩みを共有したり、育ちの喜びを共に感じたりしてきました。場合に応じてまーぶる以外の施設やサービスの紹介を行い、安心して子育てしてもらえようような応援を行ってきました。

3. デイレスパイト事業所としての責任を意識した対応を心がけます。
 - ・ 区や他事業所と連携し、迅速な対応ができる体制づくりを行いました。担当者と顔を合わせる機会を設けることで、お互いの理解や信頼関係強化が図れたと考えています。
 - ・ デイレスパイト事業の対象者だけに限らず、当日の緊急申込に対しても定員の許す限り断ることなく受け入れました。今後も各関係機関との更なる信頼関係強化に努めていきます。

4. 保育者は連携し、チームとして保育を行います。情報の共有、スキルアップ研修を積極的に行います。
 - ・ 毎月のミーティングでは、日々の業務報告や情報共有を行うだけでなく、課題を設定し、小グループでディスカッションを行う機会を設けてきました。それにより、毎日の保育の中では聞けないワーカーやスタッフの声を共有することができ、お互いが新しい発見を得られたり、保育の視野が広がったりと良い影響が見られました。またワーカー・スタッフ間の関係強化にもつながりました。
 - ・ インクルージョン保育、虐待防止、ペアレントトレーニング等の様々な研修・講座に参加し、保育者一人ひとりのスキルアップを図りました。研修参加後はしっかりとその内容を持ち帰り、他のワーカーにも共有できるよう報告書を作成し、会議の際に発表の時間を設ける等、情報の共有にも力を入れてきました。
 - ・ 子育て支援員研修に 11 人が参加し、資格取得しました。
 - ・ 課題としては、「まーぶるで働く者としての意識の向上と共有」が挙げられます。まーぶるの必要性や社会的意義をスタッフ一人ひとりが自覚して日々保育に励み、より良い成果が見込まれるよう、取り組みを進めていきます。

5. 中高生、大学生、ボランティアの受け入れを通して、子育て支援についての理解を広げていきます。
 - ・ 今年度は、中学生福祉体験（1年生 4名・各 1日 2年生 4名・各 2日）、大学生社会参加実習（2名 計 70時間）の受け入れを行いました。
 - ・ 中学生には事前アンケートを用意し、まーぶるの行う事業の意義について考えてもらう機会を設けました。大学生は毎回の実習後にフィードバックを丁寧に行い、まーぶるについての理解を深めてもらうと共に、学生一人ひとりが日々の成果や反省点などを自分自身で振り返り、成長につなげてもらえるような努力をしてきました。
 - ・ 大学生の受け入れでは、直前のキャンセル、途中放棄などの問題もありました。社会人として責任を持って実習に臨んでもらうために大学側とどう打ち合わせるか検討する必要性を実感しました。

6. 地域の方との交流に努めます。
 - ・ 自治会に加入し、町内会とつながりが実現しました。
 - ・ お散歩マップワークショップをびよびよと共に行うことで、地域の方とのつながりの幅が広がりました。

②子育て中の親子の交流事業

《親と子のつどいのひろば びよびよ》

1. より多くの親子と地域の人に「親子で過ごせるつどいの広場」があることをニュー

スやブログ等で知らせます。

- ・ イベントの日だけではなく、通常の広場で親子のようすをブログやHPで紹介し、利用を躊躇していた親子や、居場所を探していた親子に気兼ねなく利用できる広場である事を配信しました。その後、広場利用や会員登録に繋がりました。
 - ・ ぴよぴよ通信を毎月1,400部発行し、地域の店舗、小児科、産院、駅構内など様々な場所に配架、また区役所での乳幼児健診で手配りし、ぴよぴよを広く多くの方々に紹介することができました。今後も配布先の開拓をしていきます。通信を見て見学に来る親子の姿は、スタッフだけではなく、サポーターや子連れボランティアの励みにもなっています。
 - ・ 地域の育児教室や子育て広場に出掛け、Babyタイムや通常広場の利用など、親子が安心してゆっくり過ごせる広場の紹介をしました。
- 2. 自主研修や外部研修を通して人材育成を行います。また様々な年代のボランティアを受け入れます。**
- ・ 外部研修に積極的に参加し、スタッフ自身のスキルアップを図るとともに、研修内容を他の広場スタッフ、子連れボランティアとも共有することで、広場全体に生かせるよう努めました。
 - ・ 國學院大学の「絵本キャラバン」と連携し毎月読み聞かせを行いました。親子が楽しめるイベントになり、広場で大学生と親子が交流できる貴重な体験になりました。
 - ・ 地域のシニアボランティアにも広場に入ってもらい、子育て中のママとの交流の場になりました。
- 3. 親子の声や力を活かし、どんな子育て家族でも利用しやすい広場づくりを目指します。**
- ・ ボラ会でボランティアから出た意見、要望などをスタッフ会議で共有し、取り組めるところは工夫していきました。
 - ・ 居心地の良い環境と定期的なおもちゃの入れ替えをすることで、親子が楽しめる工夫をしました。
 - ・ 利用者の特技を活かしたイベントを企画し、親子が積極的に参加しました。
 - ・ 利用者同士がお互いさまの気持ちを持って、互いの子どもを見守りながら過ごしているようすが見られました。初めて広場を利用する方には、先輩ママや子連れボランティアが声をかけ安心して利用できるようサポートをしています。
 - ・ 利用者が作る廃材を使った手作りおもちゃは毎回好評で、広場で親子が楽しんで遊ぶ様子がみられました。広場にいる時間で作れる簡単なおもちゃ作りは、ママ達の良い気分転換にもなりました。
- 4. 地域で子育てを支援している方との交流や情報の交換を行います。**
- ・ 子育て家族だけではなく地域の方にもぴよぴよを知ってもらうために“ぴよぴよ〇

PEN WEEK”を11月21日（月）～25日（金）の一週間行いました。主任児童委員や赤ちゃん訪問員に実際の広場の様子を見てもらう機会にもなりました。

- ・ 地域の子育て広場や、おもちゃの広場等に広報に行き交流や情報の交換、顔の見える関係づくりができました。
5. パレットの他の事業所や行政等との連携を深め、子育て家族を応援します。
- ・ 運動会やおもちつき大会など他事業所の行事に利用者親子が参加して地域の方との交流ができました。
 - ・ まーぶるや子育てサポートシステムの登録説明会をびよびよでやったことは「いつも行っている場所で気軽に話が聞けたので良かった」と好評でした。
 - ・ 保健師の広場訪問がありました。子育ての悩みや不安など、普段聞けないことを質問したりアドバイスをもらえる良い機会になりました。

③保育室での保育に関する事業

《家庭的保育室 なないろ》

1. 小規模保育事業としてのスケールメリットを生かしたきめ細やかな対応を行い、家庭との信頼関係を構築し、保護者の悩みにも寄り添いながら子育てを応援します。
 - ・ 連絡帳や送迎時の保護者との会話の中で子育ての悩みが多く聞かれました。子どもの育ちについて、その大変さを分かち合いながら語り合うことで、保護者との信頼関係を築くことができました。子育てについてや、なないろへの要望などに関するアンケートを行い、希望者とは別室にて個人面談の機会を持ちました。保育室と家庭それぞれでの子どもの様子と対応を共有し、協力して子どもの育ちを支えることができました。
 - ・ 今年度設置した運営委員会で、事業の報告と意見交換を行いました。利用者の委員から出た意見、要望に応え、実際の給食を見てもらう給食サンプルの提供を行ったり、安全対策として玄関にオートロック錠を設置し、安心につながりました。
2. 一人ひとりの子どもを丁寧に見守り、第二の家庭のように安心して過ごせる保育室をめざします。
 - ・ 子どもの年齢、発達段階に応じた保育を行いながら、個々のよいところを引き出し、のばしていくよう努めました。子どもたちはのびのびと活動に取り組み、初めてのことや少し苦手なことにも保育者の手を借りながら挑戦する姿がたくさん見られました。
 - ・ 一人ひとりが安心して毎日の生活を送り、保育者との安定した関わりの中で基本的な生活習慣を身ににつけていくことができました。

- ・ 日々の保育の中で見られる、元気いっぱい遊ぶ姿、笑顔やいろいろなよい表情を写真に撮って、掲示や保育参観で保護者にも見てもらうことができました。
3. 保育者間の連携をとり、保育内容の充実と保育技術の向上に努めながら、保育者・栄養士全員がチームワークよくそれぞれの立場から子どもたちの育ちを見守り、支えていきます。
- ・ 毎日の出来事やふりかえりが出た意見の中で、特にとりあげるべきところをミーティングで話し合い、共有できました。職員間相互のコミュニケーションがよくなることで保育中の役割分担がうまくでき、子どもたちの活動を支えることができました。
 - ・ 状況に応じて個々に配慮が必要なケースでも、家庭からの要望を他の保育者や栄養士に明確に伝え、対応を迅速に検討し、問題なく対処することができました。
 - ・ スタッフルームにヒヤリハットボードを設置しました。施設内の危険予測に気を配り、早期に対策ができるとともに、スタッフ自身が新聞等で見聞きした情報や事例を皆に知らせ合うなどして安全と危機管理に対しての意識がより高まりました。
 - ・ 一時預かり保育室開所後は、毎日のお散歩を中心に一緒に活動する機会が多くあり、日々の預かり人数や子どもの様子について事前に打ち合わせし、認識しておくことで安全に活動ができるように努めました。たくさんの新しい友だちと接することにより子どもたちはいろいろな経験をし、それが成長につながるように見守りました。
4. 既存の施設や地域の方との交流を継続していくとともに、2歳児の卒室後の入園先としての連携園と協力できる体制を作ります。
- ・ 卒室後の進級先としてもえぎ野幼稚園と連携しました。この春に卒室した2歳児のうち2名が連携園に進級することができました。
 - ・ 連携園のいずみ青葉台保育園とは、健康診断、歯科検診や園庭利用の他にも1歳児クラス、2歳児クラスとの交流保育も行い、子どもたちはもちろん、職員も交流をはかりました。
 - ・ 榎が丘小学校での防災拠点訓練に参加し、地域の方と顔の見える関係づくりができました。自治会と協力してマンション居住者の皆さんに青葉区報や回覧板などで地域の情報を伝える窓口となりました。近隣や居住者の方々とお話しできる機会が増え、地域とのつながりができました。

④子育て中の親子の交流事業

《しえすた》

1. 親子が気軽に足を運び交流しやすい場、遊びの提供、親子の関係を深めるお手伝い

をしていきます。

- ・ 週5日常設で広場を開催し、誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように家具やおもちゃなどの環境を整えました。
- ・ リピーター利用者や親子ボランティアが広場の雰囲気づくりに参画し、初めて来た親子ともおしゃべりを通してアドバイスしあう、助け合う場になりました。
- ・ 広場を利用したことがない親子が広場に来るきっかけとなるイベントをいくつか開催しました。(Babyタイム、お話し会、手作りの日、英語で遊ぼう等)
- ・ **Baby** タイムやお話し会、英語で遊ぼうのイベントは、お子さんを膝にのせて親子と一緒に楽しむイベントとして好評でした。
- ・ 手作りの日は短い時間ですが、子どもと離れて物づくりに集中し、利用者さん同士がおしゃべりしながら交流できるお楽しみのイベントとなりました。利用者同士でお子さんを見守りあうこともできました。
- ・ 広場玄関にイベントの紹介やのぼりを置き、子育て親子でない地域の方にも存在を知ってもらえました。

2. ワーカー・スタッフ・ボランティア（親子ボランティア含む）のチームワークを大切にしていきます。

- ・ 毎月行うスタッフ会議で情報を共有し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、丁寧な対応に努める体制もできました。
- ・ スタッフや地域ボランティアの見守りのもと、地域の親子が集い、交流しながらお互い支え合う居場所となれるよう努めました。
- ・ スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切にし、日常の悩みや育児不安を話せるように努めました。
- ・ 相談内容は個人情報を保護し、外部にもらさないことを厳守しました。
- ・ 気になる親子や配慮が必要な場合は、スタッフ会議で情報共有を行い、場合によっては地域の保健師に相談しました。

3. 地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。

- ・ たまプラーザ地域ケアプラザ、美しが丘地域ケアプラザ、山内地区センターなどで出張ひろばを開催しました。
- ・ たまプラーザ次世代タウンミーティング、住民創発プロジェクトに積極的に参加し地域の情報交換をすることができました。
- ・ たまプラーザ地域ケアプラザで月1回開催している、たまこね食堂の調理や配膳のお手伝いに参加しました。自治会の方々や赤ちゃん訪問員と作業しながら近隣の生活に密着した情報を聴くことができました。
- ・ 地域育児教室（1月）や子育てひろば（4月、12月、2月）にゲストとして遊びに行き、親子の触れ合い遊びやお話し会をすることができました。
- ・ 美しが丘ケアプラザのお祭りに参加しました。

- ・ たまプラーザ商店街の夏祭りに参加し、利用者の家族や小学生になったお子さんと再会でき、良い交流の場となっています。
4. 他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所とも連携して子育て支援の充実に努めます。
 - ・ 青葉区ネットワーク会議に参加することで、保育園、療育センター、センター園の方の話を聴くことができました。
 - ・ 青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と連携し情報共有しました。
 - ・ まーぶるの登録説明会や子育てサポート説明会など各事業所の情報などを利用者へ伝えました。
 5. 広場での情報提供、毎月の通信発行、ブログでひろばの様子をわかりやすく発信していきます。
 - ・ 区内の育児教室、栄養相談、歯科相談などの福祉保健センターからのお知らせを見やすい所に掲示しました。
 - ・ 保健師が開催している育児教室や地域の子育て支援者が行っているひろばで、広場の活動紹介やイベントの案内をすることで情報交換もできました。(山内、宮元、たまプラーザ、あざみ野)
 - ・ 商店街の方々や自治会の方々からお祭りの情報や親子も楽しめるイベント情報を入力し、利用者に知らせることができました。
 - ・ 自治会の掲示板に毎月通信を掲示してもらえることになり、子育て世代以外の方々にも広場の事を知ってもらうことができました。
 - ・ ブログや通信（毎月発行）で広場の様子やイベント報告、今後の予定を広報しました。

⑤その他この法人の目的を達成するために必要な事業

《青葉区地域子育て支援拠点 ラフール》

青葉区の子育て支援センターとして、安心して子どもを生き育てることができる地域づくりを目指します。

1. 拠点事業の周知に努め、広く区民にラフールを知らせていきます。
 - ・ 「健康フェスティバル」への参加や「ラジオ／情報誌」からの取材、「OPEN DAY」や「区民向け講演会」の開催などを通して、養育者以外の地域の方へ働きかけました。
 - ・ ラフール開設5周年企画の広報や実施の機会を活用し、今まで関わることのなかった世代や多くの区民に向けて事業周知をすることができました。商業施設や私鉄関

係者、大学関係者に働きかける機会にもなりました。

- ・ 広く区民に伝えていくために紹介DVDやラフル幟旗を作製し、効果的な周知方法を試みました。今後の周知活動にも活かしていきます。
2. **妊婦さんから0～2か月児を含む全ての子育て家庭を応援していることを発信し、相談窓口になります。**
 - ・ パパの子育て教室の開催や母親教室での事業紹介を丁寧に行なうことで、出産前から来所する方が増えました。出産後早い時期から登録し、スタッフや少し先輩への相談、養育者どうし触れ合う姿がひろばの中でみられました。
 - ・ ホームページ内に0～2ヶ月児の子育て家庭に向けたメッセージを新たに設け、出産後いつからでも利用対象者であることを伝えました。相談目的で来所する方や電話相談も増え、出産後間もない養育者へのアプローチの必要性を実感しました。
 3. **青葉区の子育て支援関係者が互いに理解し合い、子育て家庭を見守るための連携を図ります。**
 - ・ 子育て支援ネットワーク連絡会の全体会では事務局の役割を担いました。地区別連絡会は、11エリアで事前打合せから当日運営までを行い、様々な支援者どうしの「顔の見える関係づくり」の機会となりました。
 - ・ 支援者や地域の活動団体からの相談には、一緒に考える姿勢で対応し、共に子育て家庭を見守る立場として関係を構築していくことに努めました。
 - ・ 全ての子育て家庭の相談窓口としての横浜子育てパートナーの周知と連携を図るため、子育て支援情報ファイルを作成して関係機関に配布し、支援者からの相談も増えました。
 4. **多様な子育て家庭や子育ての考え方を受け入れ、利用者と共につくる広場運営をしていきます。**
 - ・ 様々な子育て家族に向けた講座や企画の実施は、当事者どうしの交流の場になると同時に、ラフルが多様な親子や子育てに向けた事業所であることを周知する機会にもなりました。
 - ・ ひろば内でのさり気ない手伝いや親子同士助け合っている姿を大切に、親子を単なる支援の受け手にしないよう心がけました。
 5. **幅広く横浜子育てサポートシステムの紹介を行い、地域での子育ての実現を目指します。**
 - ・ 通常の「入会説明会」のほか、「出張説明会」「個別説明」を開催し、出来るだけ多くの方に参加の機会を提供しました。また、簡単な紹介と質疑応答を中心に行なう「子サポって何？」も開催し、入会説明会への参加を躊躇している方を後押しする工夫も行いました。

- ・ 産前産後や養育者の育児負担を軽減するリフレッシュ利用、早朝や夜間の利用など制度のすきまを支える援助活動が多くみられます。また、援助活動だけでなく、拠点の他事業との連携も進み、多面的な支援ができました。